

桐生市観光基本計画

～計画概要書～

■計画の趣旨

本計画では、桐生市新生総合計画の市民主体の趣旨に基づき、観光部門に絞った基本計画です。実態に基づいた観光戦略を検討するために、現地調査や観光社会実験（機屋さん見学ツアー、1,000円お土産プロジェクト等）を行い、計画書を作成しました。この計画は市民に向けた観光地域づくりのススメであり『観光都市実現のための市民読本』として活用できる内容になっています。

■計画作成の背景

平成2年に作成された前回の桐生市観光基本計画（ロマンチック・クロス・プラン21）以降、平成17年6月に新里地区、黒保根地区との合併により市域が拡大しました。また、観光をとりまく情勢も大きく変化しています。本市の観光の進むべき方向性を明確にし、観光による新しいまちづくりの方策を検討すべく計画作成に至りました。

■計画の期間

平成23年4月1日から平成33年3月31日まで

短期計画（5年）、長期計画（10年）の計画とします。計画初年度である、平成23年7月から9月にかけて実施される『群馬DC（デスティネーションキャンペーン）』は、本市にとってまたとない観光振興の契機です。群馬DCは、本市の観光を足元から見直す良い機会でもあり、短期計画では、これを観光振興のきっかけとしてより有益な事業にするために実現可能なアクションプログラム（行動計画）を作成しました。

■桐生市の魅力を高めるために必要な要素

◆市民は自分たちのまちが持つ資源をよく理解する

◆市民は自分たちのまちが持つ資源を維持し活用する視点をもつ

◆市民は自分たちの街は自分たちの行動により形づけられることに気付く

■観光の定義

『観光とは、その地域の特色ある優れたものを来訪者に対して心を込めて見せ、来訪者もそれを心を込めて見ることにより交流を図る文化活動』

■桐生市における観光の位置づけ

新たな「観光」活動に官民ともに取り組み、将来にわたり桐生に住んでみたいと思う新たな市民（定住、移住）を生み出すことを、その目標として活動すること

■計画の方向性

市民が活動主体となった、桐生地域のオリジナル産業を生かすことにより地域定住者を増やすことに資する観光基本計画を、長期、短期にわけて作成する。

■計画の数値目標

桐生市新生総合計画の目標数値である、平成18年度の3,796千人に対し、10%増加するとして、平成24年度の観光客入込客数の目標数値を、4,175千人を当面の目標とし、以降の数値目標は、本計画と連携しながら総合計画の見直し時に検討します。

■市民と行政の役割

◆市民

- ・ 桐生の資源について知識をもつ
- ・ 桐生の資源を生かそうとする自覚をもつ
- ・ 自らが桐生に暮らしていることにプライドをもつ
- ・ おもてなしの心をもつ
- ・ 観光コミュニティを形成すること

◆行政

- ・ トップビジョンの宣言とトップセールスによる情報発信
- ・ 国や県など財政支援機関に対する取り組みのアピールと予算確保
- ・ 市民実施事業への協力体制確立支援
- ・ 計画に基づく予算の確保と執行
- ・ 観光に関する人材育成事業

■観光戦略

◆短期計画

群馬DCを契機とした短期計画のテーマ

『繊維産業を柱としたきりゅうの魅力PR』～産業観光の推進～

- ①『駅の情報窓口化』
- ②『おりひめバスの500円周遊ルート of 構築』
- ③『観光タクシーの推進』
- ④『宿泊施設情報の拡充』
- ⑤『飲食店の特徴・魅力・話題性の強化』
- ⑥『地域ブランドの創造と地場産品を活用した土産品開発』
- ⑦『第一土曜日の活用』

◆長期計画

- 【計画1】 具体的事業継続を伴った『桐生観光コミュニティ基盤』の構築、検証、改善
- 【計画2】 新しい観光コミュニティ形成促進
- 【計画3】 情報技術に基づいたまちなか情報共有環境の構築
- 【計画4】 他地域との連携
- 【計画5】 海外からの観光客を迎える体制の構築（インバウンド）